

平垣の

きんしょう 金正寺の猫

平成七年十一月五日号

いつごろのことか、はつきりとは、わかっていませんが、平垣にある金正寺に飼われていた猫が、近郷の猫を集めて、夜な夜な踊りの集会を開いていたと言うお話が伝えられています。

今回は、金正寺の住職である加藤義忠さんから、お話を伺いました。

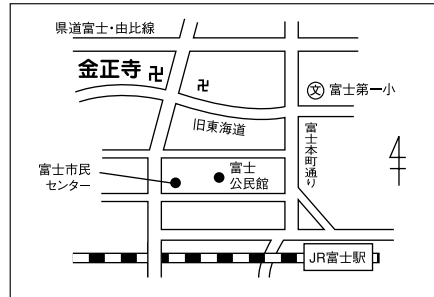
平垣の金正寺という古い寺に、年をとった大きな三毛猫がいました。片宿の百姓のおじいさんは、その猫がボスになり、毎晩、中島

村の茅積場かやつんばで近郷の猫が集まって踊っているのをはつきり見たそうです。

ある晩おじいさんは、ふる場の手ぬぐいに泥がついていて、かける場所も違っていることに気づきました。そこで、おじいさ

んは寝床へもぐって眠ったふりをしてしていると、真夜中になって飼い猫のタマが、手ぬぐいを口にくわえて出かけるではありませんか。おじいさんは、不思議に思ってタマの後をそつとつけてみました。そうとは知らないタマは、片宿の家から畑を抜け、田んぼを通過って中島の茅積場まで来ました。

何と、そこには何十匹という猫が集まって、



▶ 金正寺



手ぬぐいを頭にかぶり、後ろ足で立って愉快そうに踊っていました。

すると、突然猫たちが一斉に踊りをやめて、一匹の大きな猫を迎えました。手ぬぐいをいなせに結って、ゆうゆうとやって来たのは、

金正寺の猫だったのです。

それから夜明けまで猫たちは楽しく踊ったということですよ。

※茅積場：昔は農閑期の田畑にカヤを積んでいました。

加藤義忠さん（平垣）

この話の続きで、

「ある晩のこと、金正寺の猫は踊りの集会へ来るのが遅くなってしまうました。一匹の猫が理由を尋ねたら、『晩飯のおかゆが熱かったからだ』と答えました」という話もあります。

猫は「猫舌」だから、熱いおかゆを食べるのに時間がかかったんでしょね。

現在、金正寺では猫を飼っていませんが、たまに近所の猫が、夜になると境内に集まっているようですよ。